

インタビュー
家族に迎えて

センターから譲渡されたニャンコその後、どうしていますか？

おしゃべり大好き
嵐ちゃん

京都市伏見区 岩本様

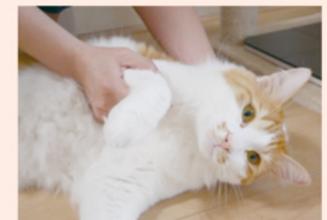
岩本さん御夫婦のもとに迎え入れられた嵐雪ちゃん(愛称嵐ちゃん)は、人が大好き、おしゃべりが大好きな男の子。取材に訪れたときも、歓迎の御挨拶で迎えてくれました。迎え入れるきっかけは、先住猫のこくまるちゃんに友達をつくってあげたいと思ったことでした。まず旦那様がセンターを訪れた際に、嵐ちゃんがいいなと感じたそうです。後日御夫婦で訪れた時にも、譲渡室の扉を開けると同時にケージの中から話しかけて



▲嵐ちゃん(手前)とこくまるちゃん



▲大好きなおもちゃで遊んでもらいます



▲取材中も、こんなにくつろぐ嵐ちゃん

きたのが嵐ちゃんでした。「ニャー！」と、奥様の足もとにすり寄る嵐ちゃん。奥様はその愛さようある姿に一目ぼれ。お二人とも「この子しかいない！」と、迎え入れることに決めました。岩本家にやってきた初日から、嵐ちゃんはくつろいでいたそうです。こくまるちゃんも最初は怖がっていましたが、2週間もすると馴れ、今では取っ組み合いの遊びをしたり、お互いの体をなめあうほどの仲良しに。

御夫婦が話しかけたとき、ごはんやトイレのとき、こくまるちゃんと遊ぶとき。「とにかく、ずっとしゃべっています」と笑いながらお話になる御夫婦。2匹で仲良く長生きしてほしいと仰るそのそばでも、嵐ちゃんは元よくおしゃべりしていました。(島口)



犬猫の飼い主さん募集

～新しい飼い主さんになっていただけませんか？～



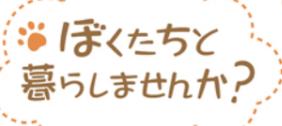
◀譲渡犬・譲渡猫の詳細情報は
こちらから

毎月
第2土曜日
13時～15時
犬の譲渡会
(保護犬見学会)
を開催しています

センターでは、引き取った犬猫のうち、適性があると判断した犬猫を希望者に譲渡する制度があります。犬や猫の譲渡を希望される方は、是非センターまでお問合せください。ただし、犬や猫の譲渡には、以下の条件がありますので、あらかじめ御了承ください。

譲渡できる方の主な条件 (詳細は、センターへ御確認ください。)

- ・京都府域にお住まいの成人で、譲渡希望者自身が飼い主となること。
- ・ペットの飼養が制限されていない住宅にお住まいであること。
- ・飼い主として責任を持ち、家族の同意を得て、家庭で犬や猫を適正に終生飼養できること。 など



※既に譲渡先が決定している場合があります。

ゴン 推定5～8歳 オス 9kg	ベス 推定3歳 メス 12kg	リヴァイ 10歳 オス 15kg	フカ 推定8カ月 メス 9kg	サビ 推定8カ月 メス 8kg
------------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------

京都動物愛護センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩 5分
 - 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩 15分
 - 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩 5分
- ※無料駐車場はございません。

〒601-8103 京都市南区上鳥羽仏現寺町 11 番地
TEL : 075-671-0336
FAX : 075-671-0338
開所時間 : 午前 9 時～午後 5 時
休 所 日 : 木曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始



Facebook → <https://www.facebook.com/anilove.kyoto/>
Twitter → <https://twitter.com/kyotoanilove>
Instagram → <https://www.instagram.com/kyotoanilove/>

京都動物愛護センターマスコットキャラクター
LINEスタンプ第2弾発売中



本紙は「京都市動物愛護事業推進基金 (人と動物が共生できるまちづくり基金)」からも出資しています。動物愛護推進基金に寄附していただいた方のうち、希望者はホームページに公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページで御覧いただけます。
→ <http://kyoto-ani-love.com/>

この機関紙は行政とボランティアが協働で作成しています。

愛ランド通信



令和2年度 冬号

—人と動物の共生を目指して—

特集 保護犬と暮らしませんか
～個性豊かな保護犬たち～

飼い方注意点
ペットと
新型コロナウイルス
ペットのためのマナー&ルール
飼い主の心得
～動物病院編～

センターニュース
力を合わせて乗り切る！
— with コロナの冬 —

インタビュー 家族に迎えて
おしゃべり大好き嵐ちゃん



モデル：フカ、サビ 年齢：推定8カ月

特集 保護犬と暮らしませんか
～個性豊かな保護犬たち～



保護犬に対してどんなイメージをお持ちでしょうか。なんだかかわいそうな犬・・・漠然とそんなイメージが思い浮かぶ方も少なくないと思います。その理由はその犬たちが保護犬になった背景や、殺処分という悲しい現実をおのずかと思い浮かべてしまうからではないかと思えます。一般的に保護犬とは、様々な事情で動物愛護センターや保護団体等に保護された犬のことをいいます。保護された理由は飼育放棄、放浪(迷子)による保護、多頭飼育崩壊など多岐に渡ります。犬によっては、すでに高齢だったり、人に対して警戒心があつたり、かみ癖やほえ癖があるなど、初めて犬を飼う人には飼育が難しいことがあるのも事実です。そのため、保護犬を迎えることはハードルが高いと感じる方は多いと思います。しかし、実際は人間でも育った環境や性格が一人ひとり違うように、保護犬も一頭一頭全く違う個性を持っていると考えてみてはいかがでしょうか。

元々人に飼われていた犬や子犬の時に保護された犬は、人に対する警戒心が薄く、人と暮らすことを苦としません。一方、野犬など、生まれてから人と接することなく生きてきた犬は、人の存在そのものが恐怖の対象となるため、人に馴れるまで年単位の時間がかかることもあります。

また、過去の経験から人間に対する恐怖心や不信感を持っていた犬には、自分を守るための術として、かみ癖がついてしまうことがあります。こういった犬たちは、なかなか新しい飼い主さんに出会うことができず、長い時間を過ごしてしまうことが多いのです。



▲トリブドルのタロウ 飼育者の体調不良のためセンターへ収容されました。お散歩に行った時は活発ですが、普段は大人しく人懐っこい性格です。

保護犬をとりまく現状

全国の動物愛護センターや保健所などの保護施設には、年間およそ3.5万頭もの犬が収容されており（環境省平成30年調べ）、それらの犬は動物愛護センターや保護団体等によって元の飼い主に返還するほか、新たな飼い主を探す取組が行われています。

こうした実態が近年メディアで取り上げられるようになり、「保護犬」という言葉をよく耳にするようになりました。しかし、「犬を飼いたい」と思ったときはペットショップへ足を運ぶ人がほとんどで、保護犬を迎え入れるという選択肢がなかなか浸透していないのが現状です。

京都動物愛護センターでは

飼い主の体調不良・死去など、やむを得ない理由で飼えなくなり、行き場を失った犬が多く引き取られています。また、最近では、災害によって被災したものや、経済的に余裕なくなった飼い主が手放したするなど、いずれにしろ、人の側にいることに抵抗のないものがほとんどです。また、全ての保護犬はトレーナー監修の下で飼育され、ほえ癖などの問題行動を修正したうえで、新しい飼い主さんとの出会いを待っています。

引取依頼（放棄）の理由

その他
（飼育困難な病気・
飼育費用の負担など）
攻撃的な性格
犬の高齢化
急な転居

飼い主の
体調不良・
死去



センターに収容されている保護犬たち



レオ

小型犬の6歳の男の子です。元の飼い主さんが飼育放棄し、現在はセンターで暮らしています。人懐っこい性格で、お散歩が大好きです。



アル, タフ, サビ

野犬の子犬です。生まれた時から人と接することなく育ったので、怖がりな警戒心が強いですが、そのため、落ち着いた御家庭で、この子たちのペースに合わせてくださる飼い主さんを募集しています。

保護された直後の野犬は、お腹が減っていてもなかなか餌を食べてくれないほど、人に対する警戒心が強いのです。そのため、職員が毎日手から餌を与え、次に、身体を触られることや首輪・リードの着脱トレーニングなどを行い、人に対する警戒心を徐々に解いて、新しい御家庭に迎え入れていただくための準備を進めています。



▲トレーニングの一環でボランティアスタッフともふれあいます

京都動物愛護センターの野犬に関する取組はホームページに詳しく掲載しています。



京都動物愛護センターから譲渡を受けると・・・

- ワクチン接種済み
（譲渡までにかかるワクチンの費用はセンターが負担します）
- 譲渡前にトライアルができる
- 譲渡時点でマイクロチップを挿入済み
- 飼い主交流会やしつけ教室など、犬と飼い主さんが幸せに暮らしていけるような譲渡後のサポートもあります。



保護犬と向き合う ～保護犬の魅力～

ペットショップで販売されている犬はほとんどが子犬ですが、保護犬の場合は多くが成犬です。保護施設にいる成犬は、施設の職員・スタッフが各犬ごとの行動の特徴や性格を把握しており、引き取る際に自分の生活スタイルや環境とマッチング出来ます。子犬のころから育てて、成長していく様子を見守ることも犬を飼うことの楽しみの一つですが、個性のある成犬を迎えて、その子が新しい家庭に一步步なれていくのを見守るのは、保護犬ならではの楽しみです。

時間をかけてじっくり真摯に向き合っていけば、きっとこちらの愛情に応じて心を開いてくれます。新しい一面を発見したときの喜びや心が触れ合ったときの感動を感じられることが、保護犬と暮らすことの魅力といえます。

もし、犬を飼おうと思ったら、まず保護犬に目を向け、センターにいる犬との出会いを選択肢の一つとして考えてみてください。保護犬たちがあなたとの出会いを待っています。

(A.O & Y.M)



ペットと新型コロナウイルス

● 犬や猫は新型コロナウイルスに感染しますか？

これまでに新型コロナウイルスが、感染者（人）を介して犬や猫に感染したと考えられる事例が数例報告されています。

また、動物園のトラやライオンの感染事例も報告されています。ただし、現時点では、人から動物への感染事例数はわずかな数に限られています。

● 新型コロナウイルスに飼い犬、飼い猫を感染させないためにはどうしたらよいのでしょうか？

新型コロナウイルスに感染した人との濃厚接触によってペットが感染する可能性は否定できないため、飼い主自身や家族が感染することのないようしっかりとした感染予防対策を行うことが重要です。

- ・手洗い、手指の消毒をこまめに行いましょう。
- ・症状がなくてもマスクを着用しましょう！
- ・他の人と一定以上の距離を保つように心掛けましょう。

猫の場合は完全室内飼育とし、犬の場合はお散歩のときも感染予防対策を心掛けましょう。センターをご利用の際も、必ずマスクの着用をお願いします。

万が一、飼い主が感染した場合に備え、ペットのお世話を代わりにしてくれる人や、信頼できる預け先を見つけておくことも大切です。

新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワーク等で家で犬猫と過ごす時間が増えた人も多いと思います。我が家の猫は、テレワークの日は、パソコンのキーボードの上に乗ったり、テレビ会議に参加したりと、楽しそうにしています。制限も多いウィズコロナの時代ですが、猫に癒され感謝する日々です。(Y.N)

(この記事は、2020年8月時点での情報です。)

ペットのためのマナー&ルール

飼い主の心得 ～動物病院編～

ペットを病院に連れて行く際は、必ずキャリーケースに入れるか、リードを付けて行きましょう。ペットどうしのトラブルや、交通事故が避けられます。

もし粗相してしまったら飼い主さんが後始末をしてください。道具がないときは、病院に伝えて貸してもらいましょう。院内ではオムツやマナーベルトをさせる方法もあります。

また、他のペットをむやみに触ってはいけません。緊張していたり具合が悪かったりするので、咬傷事故になることもあります。

マナーを守って
お互い気持ち良く
利用したいですね。



センターニュース

力を合わせて乗り切る！

— with コロナの冬 —



2020年に入り、日本での感染が報道され始めた新型コロナウイルスは、またたく間に日本中に広がっていきました。

京都動物愛護センターではイベントや研修会、毎月恒例の「犬の譲渡会」の開催の中止が決まり、併設のドッグランの利用も中止に。また約100名の登録ボランティアスタッフの活動もすべて休止になりました(現在は一部再開)。



▲感染予防は一人ひとりの注意が大切！

一方、緊急事態宣言の発令中も、犬猫の相談や収容管理作業などは、減ることがありませんでした。目に見えないウイルスに対し、普段から様々な感染防止対策を講じ、誰一人感染しないように一層の注意を払いながら、保護犬猫の譲渡事業等が滞ることがないよう、努めました。

保護犬猫の命を預かり、一頭でも多くの譲渡につなげるため、新型コロナウイルスに負けるわけにはいきません。

(5期 山本)

※イベント等の開催状況はホームページで御確認ください。

(この記事は、2020年8月時点での情報です。)



▲ボランティアさんと遊びたいよー